

【徳地地域】平成27年度 やまぐち車座トーク21 整理票(閲覧用)

開催日:平成27年12月21日(月)
 地域名:徳地地域
 参加者:62人(市側10人を含む)

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
1	徳地地域 づくり協議会 副会長	<p>■次世代を担う人材の育成・教育の推進 ◎防府高校佐波分校の存続要請 【徳地地域づくり協議会 副会長】 防府高校の佐波分校が、まもなく廃止になるのではないかと記事を読んでも大変心配している。 佐波分校には、現在、55名の生徒が在学している。そのうち、徳地在住の子どもたちが15名である。佐波分校がなくなると、この子どもたちは、どうなるのだろうか。 山口、防府に行くにしても大変な交通費がかかる。経済的な理由で、進学を断念しなければいけないことも、出てくるのではないだろうか。 ぜひ、市からも県に対し、防府高校佐波分校の存続の要望を上げてもらいたい。</p>	<p>【市長】 平成24年に佐波分校して、県教育委員会ともいろいろ協議させていただいた。2つの考え方があって、山口高校の分校、そして防府高校の分校とするか。 徳地地域は、防府との交流が深い。そうした徳地地域の中で進学される方々の人数が減っている。それぞれの専門、工業学校、商業学校、普通科、スポーツをやっている学校など、いろいろあって、皆が佐波校に行ってもらえればよいが、なかなかそういう実態にはなっていない。数字をみると、防府地域から入ってくる人達が多くて、地元の方々は、なかなか佐波分校には進学していない。こういう状況も、どうにかならないかとの感じもする。2～3日前の新聞にもあったが、普通高校の学校区を除いていく形も進んでいる。 佐波分校の存続には、定員を確保していかなければならない。今、定員は40名、県の方針としては、20名を下回らなければ存続できると聞いている。何とか定員40名のうちの20名以上を保持したい気持ちでいる。 まずは、広く通学してもらうための通学支援ができないのか、あるいは、もっと進んで寮制度ということも、今の体制では難しいが広域的に来られる体制ができないのか県教育委員会に言っている。実際に島根県あたりは、寮制度に対して支援している。そういった時代ではないだろうか。 特に、山口市は徳佐分校もあり、2つの分校を抱えている。状況はだいたい同じである。そうしたことから、第一義的には、何とか定員の1/2以上確保できる体制を市単独でできるものがあれば検討し、まずは、県教育委員会へいろんな形で要望していきたい。 阿東地域は、かなり陳情・要望がされている。徳地地域も、ぜひ佐波分校を存続させてもらいたい、という声を大きくしていただくと、県に要望にいても心強い。子どもたちが、佐波分校に行きたいと思う特色のある学校については、県教育委員会に頼まないといけない。佐波分校だけでなく、徳佐分校についても同じである。そういったこともあわせて要望していきたい。</p>	総合政策部	企画経営課	【企画経営課】 同左

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
2	徳地地域 づくり協議 会 副会長	<p>■次世代を担う人材の育成・教育の推進 ◎廃校後の林業専門学校としての活用 【徳地地域づくり協議会 副会長】 急激な少子化の時代の波に抗うことができず、仮に防府高校佐波分校が廃校になった場合、林業に特化して林業専門学校という形で活用できないか。人材育成、定住支援の方策の一つになると思う。</p> <p>募集する学生も、年齢幅を広げて、例えば40歳以下なら入学できるようにして、全国に志のある人を公募するといいいのではないか。そして在学中は、例えば市の臨時職員として一定の生活支援(生活費支給)をする。</p> <p>その代わりに、卒業後には、徳地で何年間か仕事をしてもらうという形がとれないものだろうか。植樹、製材、加工、流通まで考えれば、林業は将来性のある職種だと考える。</p> <p>先日、この件に関して、地域づくりの役員会で、「徳地和紙の原料であるミツマタとかコウゾを栽培してもいいね」という意見もでた。東大寺の再建にあたり、徳地の木材が使われているということは、徳地住民の誇りでもある。</p> <p>こういった歴史的背景もあることから、徳地を山口市、山口県の林業の拠点にできないものかと考えている。一考いただきたい。</p>	<p>【市長】 廃止後のことはあまり協議したくないが、林業の専門学校との提案について、いろんな形の中で検討していく価値はあると思う。特に、山口市は農業王国であり、林業王国である。美祢市と山口市は林業王国である。</p> <p>そうした中で、五重塔をはじめ、神社仏閣の栓皮茸、あるいは茅茸等について、技術者の問題があり、技術継承をどうしていくのか。産業では徳地和紙の問題もある。</p> <p>市だけではなく、県全体として、もう少し広いところから専門学校的なものが必要ではないかということで検討課題に入れて、推進できるとなれば山口市は立地条件がいいと思う。</p> <p>そして、山口市の中でも、徳地地域には重源の郷もあり、当時のテクノポリスだった歴史的なこともあるので、主張・要望しやすい。具体的にどういった取り組みとまではないが、皆様と同じように野望を持っている。また、いろいろな研究、検討もさせていただきたい。</p>	経済産業部	農林政策課	【農林政策課】 同左

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
3	徳地地域 づくり協議 会 副会長	<p>■次世代を担う人材の育成・教育の推進 ◎学校の適正規模、配置の考え方 【徳地地域づくり協議会 副会長】 小学校の統廃合について、賛否を問うと徳地住民の大多数の方は反対と言われると思うが、「たくましい自立した子どもたちを育てるには、ある程度の規模の中で育ったほうがいいのではないか」という意見をお持ちの方も若干おられることも事実である。 市の将来にわたる学校の統廃合に関する展望をお聞かせいただきたい。</p>	<p>【市長】 学校の適正規模については、まず、子どもたちの教育を一義的にやらなければいけない。子どもたちの教育のために集団教育、ある程度の規模が必要だということは、尊重していかなければいけない。 そして、もう一つは中山間地域等については、特にコミュニティを重視している。地域のコミュニティの核は、まずは学校である。学校で一緒に学ぶことで、他所に出て行っても、帰りたい(郷愁感)という、故郷を愛する気持ちになり、どうしても学校は一つの中心となる。だから、学校は簡単には廃止できない。子どもたちの教育水準を考え、一方ではコミュニティの核となる学校、特に小学校は存続しておきたい。 いろいろと地域の御意見を伺い、地域の中にも保護者の方の意見とそれ以外の方の意見は、若干違いがあると思う。両方一緒にしながら、地域が選択されたことを市は尊重していく。 教育委員会へは、国の指導等もあり、複式学級の解消や過小規模校の解消など、いろんな学校の基準が国から提示されている。市の考えとしては、子どもたちの教育の問題と地域コミュニティの核であることの2つが調整がとれない以上は、学校統合、あるいは廃止は避けたい。 平成28年3月31日で阿東の嘉年小学校が廃校となる。ここは子どもが2人である。地元の中で何回も協議され、子どもたちのこともあって、統合・廃校という形を地元は選択し、市はその形に応じていった。</p> <p>【教育部長】 統廃合の具体的な対応や事務的なことからお話をさせていただく。 国において、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が公表された。この概要は、1学年1学級以下については、設置者である市町村において検討するように指針がでた。それに加え、通学については、小学生は4km以内、中学生は6km以内、通学時間は1時間以内という指針である。 市では、平成20年8月に「山口市立学校適正規模適正配置基本方針」を作っている。内容は、小学校では5学級以下を過小規模校とし、中学校では6学級以下を小規模校と過小規模校として適正化の対象にしており、通学の範囲は、小学校は国では4kmだが、市では3km以内とし、中学校は国と同じ6km以内、通学時間については、今回、国から指針が示されたが、市は平成20年の8月に1時間以内と方針を持っている。 こういう基準のもとで、統廃合については考えているが、この基準で全てをもっていくのではなく、保護者や子どもたちがどう思われているか、小学校は特にコミュニティの核となるので、そのことを勘案しながら進めている。 特に、小規模校が対象になっていくが、今後、子どもたちをどう育てていくかを考えると、御指摘があったように、義務教育の段階において、児童・生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立性と、国家・社会の形成人としての資質を養うことが、義務教育の重要な目的であるので、子どもたちが、ある程度の集団規模の中で生活することについて、重々承知している。 その中で、コミュニティなどを勘案しながら、どう進めていくか、まず、できる範囲として、ICTによる串小学校と柚木小学校のインターネット・テレビによる授業、これについてはできるなら、もっと深く入っていきたいと思う。それと、近くの小学校の合同の授業、社会見学、現実的には阿東地域のさくら小学校と生雲小学校において、学校行事を交流しながら進めている。 学校の適正化配置については、子どもたちの成長が最も大事なことだと思う。それをまず最優先にした上で、保護者・地域の方の理解を得ながら、統廃合について丁寧に考えていきたい。</p>	教育委員会	教育総務課	【教育総務課】 同左

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
4	<p>徳地地域づくり協議会 副会長</p> <p>徳地地域づくり協議会 事務局長</p>	<p>■次世代を担う人材の育成・教育の推進 ◎小中一貫教育への取り組み 【徳地地域づくり協議会 副会長】 防府市富海地区で、小中一貫教育の取り組みがされている。特色のある学校づくりの一つとして、徳地地域でも取り入れてはどうか。 まずは、検証してみて、効果があれば、こうしたことにも挑戦させていただけないだろうかと考える。 いずれにしても、周辺部が活性化してこそ、豊かな山口市になると思う。地域も頑張るので、徳地をよろしく願いたい。</p> <p>(…市長、教育部長の話を受けて…) 【徳地地域づくり協議会 事務局長】 先ほど、小中一貫型教育について、「小学校の統合は、考えていない」とのことだったが、中央小学校と徳地中学校を小中一貫型教育はできないか。今、世の中はグローバル化して、ますます外国語が重要になってくる。小さいうちから、外国語に触れることが非常に大事なことだと思う。徳地にそういう特色のある学校ができると、それに対して児童・生徒が増えるのではないかと期待感がある。</p> <p>《次項へつづく》</p>	<p>【市長】 小中一貫校については、メリット、デメリットがいろいろある。ちょっと特殊なので、途中で転入・転出となると、なかなか難しい面もある。また、学校の先生方は小中学校教員免許を一緒に持たないといけない。校長先生も2人備えられればいいが、1人であるなど、いろいろと難しい面もある。 しかし、早い段階(小学校4年・5年くらい)から英語教育がきちんとしていけたり、9年間を通じてのカリキュラムでやっていけるなど、メリットも沢山ある。 そういった中で、市としては、一貫校について研究はしている。まずは、「一貫校型」という形で、先生方の会議を小中一緒に開いたり、いろんな行事を一緒にやっていくなど、カリキュラムを協議していく。あるいは、小学校の高学年になったら、学科ごとに先生をつけたり、「小中一貫校型」として、小中一貫校とはいかないが、それに準じた形で、いつでも小中一貫に移していける研究を教育委員会で始めている。</p> <p>【教育部長】 市教育委員会では、9年間の連続性・系統性を重視して、いろいろな場面で小中の連携を推進している。その中の一つに小学校34校、中学校17校の全てに「学校運営協議会」、いわゆるコミュニティ・スクールを設置しており、双方の乗り入れによって子どもたちが9年間で学ぶシステムづくりを進めている。 もう一つは、子どもたちが生まれて小中学校を卒業するまでの15年間で、どういう子どもを育てていくか、地域の方がコミュニティ・スクールを中心に頑張っておられ、徳地地域では、「徳地の子どもたちを皆で見守り育てましょう」ということで、徳地地域協育ネットに尽力いただいている。引き続き、この事業を進めていただきたい。 具体的にどのように一貫教育を進めているかについては、小中合同の職員会議、小中合同の学校運営協議会、行事等の合同開催、小学校高学年からの教科担任制、小中連携のカリキュラムの作成、出前の授業や体験入学等々を進めている。メリット、デメリットがあり、「小中一貫型小・中学校」、「義務教育学校」を急激に進めることは、まだ、いろんな課題があるので、そういうことを一つずつ研究しながら取り組んでいる。</p> <p>(…徳地地域づくり協議会 事務局長の話を受けて…) 【教育部長】 小中一貫校、いわゆる義務教育学校は、改正学校教育法が平成28年4月1日から施行になる。義務教育法には、2つのパターンが考えられ、一つは、「施設一体型」、もう一つは「施設分離型」で、今言われた徳地中学校と中央小学校は、一体型でなくて、分離型になると思う。物理的に分離型は、一貫型にするにはまだ検討する余地がかなり多く、研究をしなければならない。 外国語については、現在、小学校では、5年・6年が外国語活動という「ALT」を使いながら、会話を中心とした授業をしている。これを2020年、オリンピックの年から、5年・6年を教科にして、3年・4年を外国語活動としたカリキュラムに変わってくる。市全体で、この外国語については、まだ考えなければいけない。特に、「ALT」をどのように採用するのかを含めて、地</p> <p>《次項へつづく》</p>	教育委員会	学校教育課	【学校教育課】 同左

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です) 《前項のつづき》
4 (つづき)	徳地地域づくり協議会 事務局長	<p>《前項のつづき》</p> <p>(…教育部長の話を受けて…)</p> <p>【徳地地域づくり協議会 事務局長】 分離型ではなく、一体型を言った。徳地中の校舎が余っているので、そちらに小学校を移したら、経費も節減になる。 中央小学校のプールがだだ漏れで、徳地中学校は佐波分校のプールを借りている。だから、プールは徳地中学校に1個作ったら済むと思う。</p>	<p>《前項のつづき》</p> <p>域的なことも加味しながら、特色のある学校づくりは大変素晴らしいと思うので、教育委員会に持ち帰って、議論させていただきたい。</p> <p>(…徳地地域づくり協議会 事務局長の話を受けて…)</p> <p>【市長】 小中一貫校は、すごく難しいと思うが、市教育委員会では、小中一貫型を柔軟な対応がとれる形で進めている。一貫型の検討となれば、徳地をモデル的に検討校としてやってみる手はある。小中の施設利用も合同でいくなど、いろんな検討項目を実験してみる形から始めていくのが、より現実的かもしれない。弾力的な対応ができると思う。 英語教育については、山口市で学校の先生プラス補助教員をおいており、補助教員を活用して、いろんな英語教育ができています。特に、中山間の学校では子どもの数が少なくなっているため、子どもの数が増えていく魅力・特色のある学校となれば、保護者も通わせるために定住してくれることも考えられる。そういったことも狙っていきたい。 平成27年から総合教育会議を教育委員会と私とで一緒にする会議を持っている。その中でも、いろんな提案をしながら協議しているため、特色ある教育をやることで、都会からこちらへ定住して子どもたちを育てたい、というところまでいきたい。そういったことをいろいろ提案させていただきたい。</p>	教育委員会	学校教育課	
5	島地地域づくり協議会 会長	<p>■避難準備情報の発令時期の見直し</p> <p>【島地地域づくり協議会 会長】 27年度、市より2回避難準備情報が発令された。地区住民から川の水位が、たいして上がっていないのに、避難準備情報が流されるのは、どうかと意見があった。 27年度から、市の避難準備発令基準が変更されたのか教えてほしい。 また、27年度発令された避難準備情報は、例年に比べて、発令時期が早まっていたように思う。 発令基準の見直しをお願いします。</p>	<p>【総合政策部長】 平成27年4月に避難勧告等発令基準の目安が、「避難判断水位」から「氾濫危険水位」に見直された。川は当初、水が少なくても上流で大雨が降ると幅が少ない場合には、すぐにいっぱいになる。だから、少し早めに避難情報を出したほうが、住民の生命、財産を守るためにいいのではないかと、そういった判断が根底にある。 県のほうで、避難箇所を見直すために現地調査がされており、結果によって、これから協議を進めていくこととしている。少し時間をいただきたい。民家があったのがなくなって、危険の度合いがちょっと薄れたなど、その辺のところをこれから協議していく。「遅かった」とならないように全体的な流れがあることは、ご承知いただきたい。</p> <p>【市長】 実際、島地と榎野川の下流の鑄銭司は、すぐに防災メールで、「警戒」、「危険水位に達した」などが出る。私も、たいてい夜中にメールがきたら、すぐ起きないといけない。夜中1時、2時でも、だいたい鳴るのが島地と鑄銭司地域である。そういう中で、機敏な形でやっているが、あまりにも出過ぎるという気がしている。 防府土木建築事務所と現地調査等もしながら、検討している。先程も少し話があったが、低いところにあった民家等がなくなってきた現状も伺っている。そういうことも視野に入れながら、もう1回、氾濫危険水位等の調査、見直しをお願いしている。 忌憚のないところを、島地の方々も言っていただいで、災害のこともあるので対応を迅速にしていきたいと思う。</p>	都市整備部 市民安全部	道路河川管理課 防災危機管理課	<p>【道路河川管理課】 同左</p> <p>【防災危機管理課】 平成27年4月に河川の基準水位の見直しがあり、島地川は、氾濫危険水位が「3m」から「2m」に引き下げられました。 6月と8月には、見直された基準水位及び現地の状況を判断材料として島地地区に避難準備情報を発令しました。 その後、平成27年10月に洪水の避難勧告等発令・伝達マニュアルの見直しを終えました。 しかしながら、見直された基準水位に準じると、まだあまり水位が上がってないのに避難情報を発令することになるので、基準水位の見直しについて、県防府土木建築事務所と現地調査をしながら協議を続けており、平成28年度の出水期までには基準水位の見直しがされる見込みです。</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
6	八坂地域づくり協議会 総務部会長	<p>■中小河川の維持管理(浚渫)</p> <p>【八坂地域づくり協議会 総務部会長】 私たちの地域も、地域防災、組織づくりをしつつある。当面一番、身近な災害といえば、先程の話にも出た豪雨だと思う。近年、河川に葦が茂ったり、泥の堆積で川幅も随分狭い状態になっている。</p> <p>この前の鬼怒川の豪雨については、「水が出たらどうしようもない」という形なので、今の状態であれば、大水が出たら土砂が溜まっているので、どうしても川を越えていくのもあるし、葦の中の棲みから、いろいろな有害鳥獣が出没することもある。</p> <p>大きな佐波川や島地川の管理は、別の機関だと思うので、そちらに浚渫を働きかけてほしい。市が管理する小さい川があれば、早急に浚渫をお願いしたい。</p>	<p>【市長】 浚渫は、非常に重要になっている。今は昔よりも、もの凄く浚渫量が多くなっていて、市も予算をつけながら、浚渫を急ごうとしているが思った以上に、一つの箇所浚渫量が多いので時間がかかっている。</p> <p>徳地には、国の管理もあり、1級・2級河川で県の管理もあり、市の管理の川もある。国、県については、いろんな形で要望している。県も浚渫の必要性を認識しており、要望にある程度応えてくれている。十分とはまだ言えないが、また継続的に要望していこうと思う。</p> <p>市の管理部分も、予算配分をきちんとしていこうと思うので、特に危険なところを提示していただけたら、地域の中でどこを優先するかなど、やりこくと思うが客観的に見て大切なところを上げていただきたい。本当に危険な箇所から優先的にやっっていこうと思う。</p> <p>【総合政策部長】 平成26年については、浚渫の要望箇所を総合支所、あるいは地域交流センターを通じて、どこが危ないかを調査した。その中で県管理の河川については、凶面に落として、防府土木建築事務所へ要望してきた。県においても、予算の中での対応になると思うが、場所の当たりをつける意味で大変有難いと感謝している。何箇所か前からの積み残しがあるかもしれないが、少しずつ気をつけてくれているのではないかなと思う。</p> <p>市の河川については、予算の範囲内ではあるが、やはり要望があった場所を見に行き、地形的なものもあるが、危なそうなところから優先的に対応している。平成21年・25年の大雨の影響で、河川の浚渫に対する意識が相当変わってきており、市も予算をつけてやっているが、泥・砂をとっても、また大水が出るとすぐ溜まり、いたちごっこのようなところもある。少しでも危険の回避をと、一生懸命できる範囲でやっているのをご理解いただきたい。</p>	都市整備部 地域振興部	道路河川管理課 徳地施設維持課	<p>【道路河川管理課】 同左</p> <p>【徳地施設維持課】 県の管理河川については、地元の要望を受け、防府土木建築事務所に進達して、現地等の確認をしていただいております。また、昨年度より佐波川、島地川、引谷川、三谷川で浚渫工事も実施されており、27年度も引き続き浚渫工事を実施されているところと見えます。</p> <p>市の管理河川についても、同様に地元の要望を受け、現地等を確認し、優先順にしたがって浚渫工事を実施しております。</p> <p>発注状況は、徳地地区内で平成23年:5件、24年:7件、25年:8件、26年:7件の工事を発注しております。</p> <p>しかしながら、要望箇所や土砂の堆積量も多いことから、単年度で要望を処理することが困難となり、複数年にわたって対応しているのが現状です。引き続き、予算の確保に努め、市管理河川の適正な維持管理を行ってまいります。</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
7	徳地地域づくり協議会長	<p>■総合支所・地域交流センターの建設要望(進捗状況)</p> <p>【徳地地域づくり協議会長】 地域住民の最大の関心である総合支所、地域交流センターの建替えについて、過去2回、要望書を提出している。その後の進捗状況について、お知らせいただきたい。</p>	<p>【地域振興部長】 これまで徳地地域から、平成25年11月に最初の徳地地域交流センター、徳地総合支所の早期建替えの要望書をいただいている。26年度に、徳地地域において建設の検討会を7回開催し、いろいろ議論をされて、27年に入って5月27日に協議会としての要望をいただいている。 市としての考え方は、小さな拠点をそれぞれの地域で作っていく方向で、平成29年度まで市総合計画がある。そして、28年・29年で、平成30年からの今後10年間の次期総合計画を作っていかなければならない段階に入っている。その中で、今後の小さな拠点に向けて整理し、その計画に位置づけて、そういった総合的な小さな拠点の建設にとりかかっている。 定住の促進を進めていく上で、どのような機能を拠点に盛り込んでいったら、生活しやすく満足してもらえる拠点となるのか、今後とも徳地地域の皆様方から、御意見をいただきながら進めてまいりたい。</p> <p>【市長】 徳地山村開発センターは昭和48年、総合支所は昭和36年、両方ともかなり年数が経っているので、建替えを前提にしながら検討している。皆様方も地域づくり協議会の中で協議していただいて、場所等はほしいハッキリしてきたという感覚を持っている。 平成30年から新しい市総合計画ができて出発する。大きなプロジェクトは、平成28年度・29年度にほしいのアウトライン決めて、30年からの総合計画の中に位置づけて、スケジュールどおりにやっていくことを基本的な考え方にしている。徳地地域の総合支所、地域交流センターを一緒した総合的なセンターについては、そういった計画の手順を踏みたいと思っている。ただ、世の中は早く動いたりしているので、いい制度など合致する場合は、これからの次期総合計画に位置づけるとしても、並行的にやっていくことも考えられる。時期はなるべく早めに、そうした方向性をとっていきたいと思う。 それまでの間に、徳地地域の民意として、機能等を確かにしていただいて進めていきたい。地域交流センターと総合支所2つだけでなく、他の統廃合の中で一緒にやって、へそを作り、小さな拠点を作るワンストップ化、また民間の公共的な機関もあれば、複合化していくとより効率的になる。他のところでは敷地内に農協や保育機能、あるいは子育て機能を含めている。そして、防災機能を持っておかないといけない。ある程度の長期避難所も想定しておきながら、いろんなことを協議をしていただきたいと思う。 財源的な問題もあるが、できるだけ要望に沿っていくが基本的な考えなので、よろしく願いたい。</p>	地域振興部	協働推進課	<p>【協働推進課】 平成30年度からスタートする次期総合計画に、施設の整備について位置づけを行うこととしており、まずは、平成28年3月議会において、「山口市過疎地域自立促進計画」に、徳地総合支所・徳地地域交流センター建設事業を位置づけたところです。 今後の検討にあたっては、地域において、新たに建設委員会等を設置していただき、27年に徳地地域づくり協議会から提案をいただいている内容も含めて、地域の意見を伺いながら、事業の推進を図ることとしています。</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
8	個人 (島地地域)	<p>■市民憲章、市政方針 【個人】 前回も言ったが、山口市は、なぜ市民憲章の唱和をやらないのか。なぜ市政方針を作らないのか。 市政方針というのは、当初の議会の3月議会の議案で、それを全部、各委員会で審議している。十分検討しているのをなぜ出さないのか。 そして、市民憲章をなぜ出さないのか。これは積極的な民主的な意見だと思う。</p> <p>(…市長の話を受けて…) 今の意見は、いい加減だと思う。 市政方針をやったら、なぜ市報に出さないのか。</p> <p>(…総合政策部長の話を受けて…) 予算ではない。市政方針である。</p>	<p>【市長】 市民憲章そのものは、JC(青年会議所)さんたちと一緒にあって出してもらって審議してやっており、山口市にもある。もう少し市民憲章をアピールしていかないといけないかもしれない。 市政方針については、当初予算を組む時には、市政方針を明らかにして、まず述べさせていただいて、それから審議会に予算編成について審議をしていただくというふうにはきちんとしている。 11月終わり頃には来年度予算は、こういう方針でいきますという形で、予算編成方針といったものを明らかにしながら対応している。他の市町もだいたいそういう形で予算編成方針を掲げながら、来年度の予算編成については、予算編成概要というものを説明して審議している。 予算が編成されると、市報等でお知らせしている。そういった形をとっている。そのあたりについては御理解いただきたい。 そして、そういったものが、まだまだ浸透していないという部分は、よく聞くので、さらに浸透していくように、いろいろな機会を通じて予算概要等については説明していきたいと思う。</p> <p>(…個人の話を受けて…)</p> <p>【総合政策部長】 予算発表など、そういったことについては、市報でそれぞれ毎年、けっこう詳しく出している。</p>	総務部 総合政策部	総務課 財政課	<p>【総務課】 同左</p> <p>【財政課】 同左</p>
9	柚野地域 づくり協議会 安心安全 部会長	<p>■道路網の整備 【柚野地域づくり協議会 安心安全部会長】 ダムができて以来、柚野地区は完全に陸の孤島化している。地区の方は、就職先も幼稚園も徳佐となっていて、ほとんど徳佐地域の圏域に入っている。 私も地域おこしで、考えるが、どう考えても道路ができてないから、いくらあがいても駄目ということを切実に感じている。今、戸数も野谷と柚木をあわせて、百十数戸である。「戸数が少なくて我慢せい」というようなことは、もちろんあると思っているが、ちょっと考えていただけたら有難い。</p>	<p>【市長】 道路網、道路等交通網の関係は、柚野地域等については国道・県道の問題等いろんな形で要望してきている。ダムができてからも、いろいろな要望が出てきている。まだまだ、整備が十分に早くいっていないので、ぜひ引き続き整備をお願いしていこうと思う。県もやっているというが、遅いのではないかと、お願いもしていこうと思う。</p>	都市整備部	道路河川建設課	<p>【道路河川建設課】 引き続き事業促進を県に要望してまいります。</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
10	柚野地域づくり協議会 安心安全部会長	<p>■フェイスブックの活用 【柚野地域づくり協議会 安心安全部会長】 最近、首相官邸では、フェイスブックで官邸報告を出している。安倍首相、昭恵夫人がよく出されていて、ニュースや新聞には絶対載っていない身近の記事など、この前から、ものすごく外遊されているが、その記事がほとんど載っており、私も感激して見ている。</p> <p>市長も、自ら身近なことをフェイスブックなり、ツイッターなり出していただいたら、市民の政治離れが減るのではないかと思う。私も憲法改正に関することとか大変勉強になっている。</p> <p>身近なところでは、県議がブログを充実させていて、何をしているのか具体的に写真入りで毎日のように更新して出している。そこには、県知事も、ちよくちよくおいでになり、写真や記事を載せている。そういうのを見ると、行政で行われている事や身近で反映されている事がだんだん分かってくる。</p> <p>一生懸命、行政のほうで企画して、結果として2年後、3年後、10年後、どういうものができたかが、ブログを通して少しでも分かっていくと思う。できれば、市長自ら、ブログ等を作ってもらえたら、市民の関心が高まるのではないかと思う。</p>	<p>【市長】 まず、公のことで言うと、ウェブサイト等については、かなり具体的に充実するようにやっている。</p> <p>個人的は、ブログということになると、やるといいが時間の問題がある。私も、ツイッター等で、いろいろ意見交換したいというのもある。私個人の問題だが、そういったフェイスブック等についても検討させてほしい。</p> <p>その前には、ウェブサイト等については、もっと分かりやすいように、身近に親近感を感じられるような工夫をしていこうと思うので、また御意見等もいただきたい。</p>	総合政策部	秘書課 広報広聴課	<p>【秘書課】 同左</p> <p>【広報広聴課】 現在、市公式ウェブサイトのリニューアルを予定しており、市政をより身近に感じていただけるようなウェブサイトの構築に努めます。</p>
11	徳地地域づくり協議会 副会長	<p>■圃場整備事業 【徳地地域づくり協議会 副会長】 島地地域の圃場整備事業は、市職員の方には、ほとんど休日、夜に出ていただき、素晴らしい指導いただいた。平成30年からの60haの圃場整備事業が進む。市職員の熱心さと、積極的な指導にお礼申し上げます。</p> <p>これに関連して、推進期間3年を経て、事業の実施が10年かかる。したがって、今から12年かかる。今、国で28年度予算をやっているが、TPPの関係で区画整理について積極的にやろうと言っているのので、できるだけ早くできるように、市のほうからお願いしてほしい。</p>	<p>【市長】 島地地域の圃場整備が早く進むように、ぜひお願いしたいと思う。いろいろ国の手続きに時間がかかる。これについても土地改良区、県等を通じながら、各時間を短くしてくれるようお願いをしているので、おそらく短くなっていくと思う。</p> <p>今まで、予算が足りないから、なるべく時間を長くしているような傾向だったが、低金利の問題等があり、このたびの補正予算でもかなり組んでいる。これから重点的に、土地改良、圃場整備事業、農道の整備等について、予算化がかなり進んでいく、県にも早く言ってやっていこうと思う。あわせて、地域の協議も早くまとめていただいて、一緒にやろうと思うので、よろしくお願いしたい。</p>	経済産業部	農林整備課	<p>【農林整備課】 島地地域では、県営のほ場整備事業採択を目指した協議を行っているところです。</p> <p>山口農林事務所と連携し、早期に事業完了できるようにするためにも、地元関係者の皆様には、採択を受けるために必要となる様々な事柄について、一層の精力的協議をお願いします。</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
12	徳地地域づくり協議会 副会長	<p>■高齢者の後継者定住対策 【徳地地域づくり協議会 副会長】 徳地地域は、高齢化がもの凄く進んでいる。老人クラブも以前900人いたのが、今は600人を割っている。そうした中で、他の地域で生活している方は帰る予定は無いので、自然減で徳地は、高齢者がいなくなって寂れるのではないかと心配している。</p> <p>若者定住については、非常に行政機関が本気でやっているが、高齢者が担い手なので、市、そして徳地地域をあげて、喜んで地域に帰ってもらえるような地域づくりをやらなければ、10年後には相当いなくなると思う。後継者の方、子や孫が徳地に帰って、住みたいということが非常に少ない。この対策を地域づくりもあるが、行政の中でできないか要望する。</p>	<p>【市長】 高齢者の後継者、担い手については、若者が定住することに越したことはないが、それが難しいとなれば、リタイヤされた方々、まだ働くことが十分可能な方々の定住・移住も考えていかなければならない。これについては、進めていこうと思う。</p> <p>そして、農業委員会等とも調整しながら、いわゆる5反という問題もある。5反以下だと農業者になれない。そういうところが解決すると、徳地等へ来ても農業をやってみようというような高齢者もあると聞いている。</p>	地域振興部 農業委員会	定住支援室 農業委員会事務局	<p>【定住支援室】 同左</p> <p>【農業委員会事務局】 農地取得のための下限面積(5反要件)は、毎年7月に農地部会で協議・決定しています。取得ではなく、耕作(利用)なら、面積に関係なく行えます。</p>
13	個人	<p>■市の富の分配 【個人】 全体的に見て市の富の分配が不公平ではないかと個人的には考える。湯田に「狐の足あと」を4億6千万円。井上馨の別宅を移して2億いくらか、そして、小郡駅に南北を結ぶ通路、今後は北に開発をするという計画がある。</p> <p>県都としての面子もあるし分かるが、振り返って、それが徳地に何かあるかと言えば、何もない。地域づくりの方も一生懸命考えていると思うが、徳地和紙、人形浄瑠璃、重源の郷があるといっても、外部から徳地にお金がきて、それが市に帰ってくるという計画にはとてもできない。「財源プラスにならないところには、財源を注ぎ込まない」というような財政の運営をみると思う。けっこう、箱物を作っているが、そうではなく、人にもっとお金をかけていただけないか。</p>	<p>【市長】 富の分配は根幹的な話で、私どもも「集中」と「選択」をやっていかなければならない。一方では、バランスというものがある。こういったことに、いつも配慮しながらやっているが、その中で、時と場合によって、単年度で考えればどうか、10年・20年で考えればどうか、いろいろなことを検討しながら、バランスよくやる形をとっていきたいと思う。</p> <p>要は、人が幸せになるということである。箱物を作るために行政をやっている訳ではない。診療所を作って箱物という人はいないし、何をもって箱物というのか、ということもある。それを作ることによって、皆さんの利用がよくなって便利になって、いろいろな形で健康になっていくことを願うものなので、そうしたことも御理解いただきたい。</p>	総合政策部	企画経営課 財政課	<p>【企画経営課】 同左</p> <p>【財政課】 同左</p>

No.	発言者	発言の内容	市長・部長等の発言	部局名	所属名	担当課の対応等 (※H28.3.18時点の情報です)
14	個人	<p>■福祉優待バス乗車証の延長 【個人】 私たちは田舎の方で、先程言われた柚野の奥や三谷、野谷、串など、ずっと田舎がある。そこにも、お年寄りがいる。お年寄りが自分で運転できて、どこにも行けるならいいが、そうはいかずタクシーを雇ったり、近所の人をお願いして地域内の医院に連れて行ってもらっている。 あるいは、別に山口市内ではなく、防府の病院、医院を紹介された場合、幸いパス券をもらっているの、パス券を使用するが、防府まで850円のところがパス券の100円安くなるだけ。それを、例えば、防長交通に交渉して100円で防府まで行かれるようにしてもらおうとか、あるいは500円分を下げるなどを考えてほしい。 建物ではなく、もっと人にお金をかけてほしい。箱物でなく、交流センターも総合支所も後で結構なので、お年寄りにもっと便利に、お金を使わずに通院できるようにしていただきたい。</p>	<p>【市長】 市内については、100円で行かれる。防府まで、何とか行けるような方向を検討していきたいと思う。防府だけではなく、阿東地域も萩のほうへ行かれる方がいる。そして、阿知須地域については宇部との問題が、また秋穂地域についても防府との問題が、境界線のところはいろいろな形のところがあって、いつも頭を悩ませている。 広く県あたりで、全体として広域的に考えるべき。各市町でいくと、どうしても境界線があるから、そういった問題も起こる。県とも協議しながらやりたい。</p>	健康福祉部	高齢・障がい福祉課	<p>【高齢・障がい福祉課】 平成26年度のOD(始点終点間)調査において、徳地地域から防府市へ至る路線で3人、周南市へ至る路線で1人が、山口市福祉優待バス乗車証の利用者でございました。(同一人物かは不明) 今後とも、市外へ通ずるバス路線がございます阿知須、徳地、阿東の各地域において、利用者数を継続的に把握いたしました上で、一定の利用者数が確認された場合におきましては、乗車証の適用区域の拡大につきまして検討してまいりたいと存じます。 併せて、全市域において、日用品の購入や地域医療、福祉等といった生活機能が維持できる体制づくりを引き続き進めてまいります。</p>
15	個人	<p>■マイナンバー通知カードの受け取り 【個人】 マイナンバー通知カードを、まだもらいに行っていない方が私の地域にいる。郵便局は再度配達してもらえることが多いが、この度は、再度持ってきてもらえなかった。 郵便局に聞いたら、市へ返したとのこと。その方は高齢者なので、取りに行くことは難しい。そういう方は他にもおられると思う。 総合支所でもらえるか、各交流センターでもらえるか、高齢者が多いので、このことは、ぜひどうにかしてもらいたいと思う。</p>	<p>【情報管理課長】 郵便局から返却された分は、山口総合支所に戻ってきている。これについては、山口総合支所にあるカード交付窓口へ連絡していただければ、こちらの総合支所に送付するので、総合支所の総合サービス課の窓口で受け取ることができる。</p> <p>【市長】 なるべく相談してもらったら、個別にやっていくので、総合支所等で御相談していただきたい。 本人確認が重要、非常に重要なカードなので、堅苦しいことをしているようで、何とかやりやすくないかと思うが、どうしてもきちんと本人確認するという形がある。 総合支所でも、各分館でも、御相談いただければ、対応してくれると思う。本庁と一緒にやっていくので、どうか利用していただきたい。</p>	総務部 市民安全部	情報管理課 市民課	<p>【情報管理課、市民課】 発言者に対しては、車座トーク終了後、再発送も承っている点を付け加え、まずは最寄りの窓口へ相談していただくよう依頼し、後日、総合支所で受け取られました。 また、総合支所(総合サービス課)以外での受取については、できる限り御相談いただいた方の状況に応じた形での対応を取ることとしています。</p>